

会議の名称	令和5年度 第2回吉川市食育推進協議会
開催日時	令和5年9月19日(火) 午前9時00分から10時30分
開催場所	吉川市保健センター 母子保健指導室
出席委員(者)氏名	西村早苗委員(副会長)、下村悠太委員、見村和明委員、川島久子委員、林晴彦委員(会長)、大塚江美委員、小倉滝子委員、北原真希栄養士
欠席委員(者)氏名	田村芳之委員、飯田美奈委員、今岡由美委員
担当課職員氏名	健康増進課課長 互英久 健康増進課健康増進係栄養士 山菅総子
会議次第と会議の公開又は非公開の別	1 開 会 2 あいさつ 3 議 事 配布資料について 資料 第3次吉川市食育推進計画【素案】 4 第3回 吉川市食育推進協議会の開催日程について 5 閉 会 会議は公開
傍聴者の数	0人
会議資料の名称	第3次吉川市食育推進計画【素案】
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	下村悠太委員、見村和明委員
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
話者	発言内容
○議事	
会長	<p>初めに本日の会議の会議録署名人につきまして、恐縮ですが私の方から指名させていただきます。</p> <p>本日は名簿順で前回会議の続きから、下村委員と見村委員、お願いいたします。</p> <p>また本会議は会議傍聴要領に基づき公開とし、傍聴を認める者の人数を5名とすることを報告いたします。</p> <p>それでは議事に入ります。</p> <p>資料第3次吉川市食育推進計画素案について、事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>第3次吉川市食育推進計画の素案について、前半は前回会議でもご説明した現状分析になりますので、後半の第3次計画での目標についてご説明いたします。</p> <p>19頁、第3章の基本理念について、市民一人一人が生涯にわたり健康で心の豊かさを実感できる暮らしの実現、食を通じた幸福実感を、と掲げております。これは“幸福実感”を組み込み吉川市総合振興計画と統一性を持たせております。</p> <p>赤字部分が前回計画からの変更点です。</p> <p>基本目標の3本柱として、「健全なからだをつくる」「豊かな心を育む」は前回から引き続き取り組むため据え置き、三つ目の目標に、「実践できるまちづくり」を新たに掲げてございます。前回現状分析で、興味関心は向上し、これから先さらに実践に繋げる環境作りが必要と認識いたしましたので、市民が食の“実践したい”という気持ちの実現のため、新たに設定いたしました。</p> <p>20頁、基本目標の体系としましても、これまでは「健全なからだをつくる」「豊かな心を育む」「食で育むまちづくり」と独立した三つの小さい輪で示していましたが、今回は身体づくりをするための知識を習得する、豊かな心を育むためのイベントに参加する、のように全てに関して、実践を伴って進めていきたいという思いから、「実践できるまちづくり」を、大きく全体を覆う形に変更いたしました。</p> <p>また、基本目標ごとに『みんなでできること』という項目を新たに設けてございます。</p> <p>市が必要な取り組みを実施する事に加え、市民の協力が伴うことで、理想が実現していくものと考え、市民の皆さんにもできるような目標を掲げたいと考えております。</p> <p>21頁、基本目標1、目指す方向について、これまで関心を高めることを目標にしておりましたが、関心が一定程度高まったことを受け、今後は実際に取り組めるよう目標といたしました。</p> <p>23頁、基本目標2はおおよそ現行のまま据え置いてございますが、(1)食を通じたコミュニケーションの取り組み項目に変更がございます。</p> <p>現行計画では「3つのわ食(輪・話・和)」を掲げていますが、国第4次計画の中で環・輪・和の三つを「3つのわ食」としてございます。これを受け、国計画で加わった環を含み、「4つのわ食」と新たに掲げております。</p> <p>また、基本目標3を実践に特化したまちづくりと位置付けるため、今まで基本目標3に置いていた食品ロスの削減という項目を基本目標2に移しまして、(2)生産者や自然の恩恵、命をいただくことへの感謝に付け加えてございます。</p>

25 頁、こちらが今回新しく掲げる部分にあたり、“やってみたい”の思いを抱いた市民が、“やってみる”ための機会を得られる環境を整備します。

取り組み内容として、実践するためにはその機会が必要ですので、機会を設ける取り組みは引き続き目標に掲げ、実践に繋げるための架け橋として、27 頁、情報発信の充実を新しく項目に設けました。

こちらは、食育に関わる様々な情報を適した情報発信ツールを活用し、周知していくもので、妊娠期から高齢期まで全ての人たちを対象とし、広く目に触れるような、発信ツールを活用していきたいと思えます。

国目標でもデジタル化が掲げられており、デジタルツールの活用が勧められていますので、そういったものも活用しつつ、一方吉川市にお住まいの方の年齢層等からデジタルよりも紙媒体の方が馴染む世代も多くいらっしゃるため、デジタル化に固執するわけではなく、双方のツールを上手く活用し、皆さんに情報をお届けできるようにしていきたいと思えます。

また、各主な取り組みの後に、**HP**と入っている項目がいくつかあり、これらは吉川市の公式ホームページに紹介ページがあることを意味しています。これらはデジタル化し発信が可能なページですので、QRコードを活用する等、積極的に使用していきたいと考えてございます。

28 頁、目標達成の指標について、ピクトグラムの欄を新設いたしました。

「主食主菜副菜を組み合わせた食事を 1 日 2 回以上ほぼ毎日する人の割合増加」
現目標値の 50%は県目標 70%に比べるとやや低い目標値ではありますが、現状値を鑑み据え置くことといたしました。

「朝食を欠食する子供の割合減少」
現状値で現行目標値が達成できませんでしたので、引き続き目指してまいります。

「朝食を欠食する 20 代から 30 代の割合減少」
同様に据え置いてございます。

「健康診断を毎年受ける人の増加」
これまで目標値を 60%に掲げておりましたが、現状値 72.7%と目標を達成したため、向上を目指し 75%への引き上げを考えております。

「朝食や夕食の共食」及び※①の補足
コロナ禍によるテレワークの増加等、生活様式が変化していく中、夕飯よりも朝食の方が一緒に食べられる機会を持てる家庭が増えたと考えられるため、県や国の算出指標に合わせ、朝食・夕食合算で週に何回食べられるかに指標を切り替えたいと考えています。目標値については、県目標が週 11 回と定めているため、同様の値を目標とし、6 年後に現状値を確認できればと考えております。

「学校給食における吉川産野菜を使用する割合の増加」及び※②補足
国・県目標が、食品数ベースから金額ベースに指標を変更するため、それに合わせて吉川市でも重量ベースから金額ベースに指標を変更することを考えております。

目標値について、国は“維持向上”としており、当市の現状を考えましても、現時点で最大限活用できるように配慮されていることが見受けられますので、目標値は現状維持といたしました。なお、現状値に記載している 20.6%、令和 4 年度実績につきましては、金額ベースでの割合になります。

事務局

事務局	<p>「食品ロスのために何かしらの行動をしている人の割合」及び※③補足 これまで食品ロス問題を知っている人の割合を 90%以上に増やすという指標にしておりましたが、前回会議での現状報告の通り、多くの方が食品ロスについての知識をお持ちのため、次の段階に移行し、何かしらの行動をしている方の割合に指標を変更してございます。また目標値に関しては、国の目標値に揃えて 80%といたしました。</p> <p>「食育に関心を持っている人の割合の増加」 引き続き県目標と同様の 90%を目指してまいります。</p> <p>「食育を実践している人の割合の増加」 現在掲げている目標値にまだ及んでおりませんので、目標を据え置き引き続き取り組んでいきたいと考えております。</p> 事務局からのご説明は以上になります。
委員	<p>目標達成のための指標に加わった「ピクトグラム」とは何ですか。</p>
事務局	<p>ピクトグラムとは見た目で見えるアイコンの事で、近年SDGsの取り組み目標等についても設けられています。今回食育に関しても、農林水産省から食育ピクトグラムが公開され、積極的な活用を呼び掛けられており、県第5次計画指標(案)でも活用予定であることから、市第3次計画にも取り入れております。</p> <p>ピクトグラムを使うことで、他計画目標と同じ項目の目標が明確になる利点もあります。</p> <p>例えば、素案 28 頁の目標達成のための指標の中で、「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をする」という指標項目に【3 バランスよく食べよう】のピクトグラムを当てはめていますが、県第5次計画指標(案)の中で、市と同内容の指標の他、「野菜の摂取量の増加」や「食塩摂取量の減少」等も同じピクトグラムが当てはめられています。ピクトグラムにより、これらが同じグループの目標であることが明確になります。</p> <p>製本時にはピクトグラムがはっきり読み取れるよう、欄の拡大を検討します。</p>
会長	<p>このピクトグラムには、素案 28 頁に掲載の無い 5~7 番や10、11 番の目標もあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>1 番から 12 番まで設けられており、県第5次計画指標(案)と同様、目標設定していない項目についても引き続き取り組みを行っていきたくと考えております。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、今回の基本目標として、「1. 健全なからだをつくる」「2. 豊かな心を育む」「3. 実践できるまちづくり」を提示し、主な取り組みをまとめていただきましたが、各々のお立場からかわりが深い項目について、『みんなのできること』を考えていければと思います。</p>
事務局	<p>『みんなのできること』については、専門的なことではなくて、例えば「早寝早起きして朝ご飯を食べるようにしよう」ですとか、一個人として、こんなことならできないのではないと思うような取り組みを想定しています。</p>
副会長	<p>取り組みの考案の前に、素案 20 頁の体系図について確認をさせてください。</p>
副会長	<p>今回、健全なからだづくりと豊かな心の育み、それを支える実践できるまちづくりの土台という考え方は共感を持っています。この中で、基本目標3の主な取り組みを「地域との調和」に変更したことは、どのように捉えれば良いですか。</p>

事務局	<p>この項目は、これまで「地域と環境の調和」という名称で食品ロス等の環境への配慮も含む項目でしたが、この「環境」の部分をもととなるまちづくりに含むことに違和感があり、“もったいない”“生産者への感謝”の気持ちを育てる観点から、豊かな心を育む項目に追加し、基本目標3の主な取り組みは、地域との調和に絞った項目に変更しました。</p>
副会長	<p>食品ロスが豊かな心を育む項目に入れられたことに疑問を感じます。 食品ロスは、人の心に限らず、私たちの食料である作物そのものの維持も課題になりますので、心の育みの項目だけに置くのは違和感があります。 生産者の方々と一緒になって食料自体を守っていくことに繋げることが食品ロス削減の考え方だと思いますが、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>食材の命をいただくことや、生産者の方への感謝の気持ちを育てることに気が向き「豊かな心を育む」項目に加えましたが、ご意見を受け、それらが環境と密に繋がっている意味合いが希薄になっていると感じます。 本項目について、基本目標3に戻すか、基本目標2、3双方に置くべきか、今一度検討したいと思います。</p>
会長	<p>自分は中学校に勤めておりますが、小・中学校ですと22頁の(3)早寝早起き朝ご飯は、スローガンにして取り組んでいるところが多いです。 家族と一緒に朝食を食べるという目標もありますが、早起きができなくて食べられないというアンケート結果もたくさん出ていました。中学生ですと、やはり早寝ができず朝起きられないことに繋がっているところがあります。それこそスマホを見ていて等が多い印象です。そういったところも子ども達にも話しながら、この早寝早起き朝ご飯の大切さをこれからも伝えていければと思っております。 各々、素案について気になるところを発表していただければと思います。 よろしくをお願いします。</p>
委員	<p>基本目標3の「食品の安全安心」の『みんなでできること』について、生産者の立場から、農地にゴミを捨てない、ポイ捨てをしない、ということが浮かびます。 これは豊かな心の育みにも該当するかと思います。例えば田んぼに瓶等を捨てられると、稲刈り中にそれが巻き込まれ、割れた破片が最終的にお米の中に混じる可能性がゼロではありません。 そういったことから、食品の安全安心のために農地にゴミを捨てないことを取り組み目標に入れていただけたらと考えます。</p>
委員	<p>個人的には基本目標1の健康診断について、年をとると健康のことが気になるため、健診を受け、結果を見ながら、気をつけて行かねばと思うところです。 他に、食品ロスについても大きな問題になっていると感じます。私はあまり自分で買い物をするのではないものの、大量にまとめ買いしてそれが無駄になる事の無いよう、できる限りこまめに買い物をすることや、最終的に誰も購入されず、廃棄やロスに繋がらないよう、値引き商品を協力して購入する等の取り組みができると良いと感じます。 また立場上、商工会として、市内には様々な商店があり、農産物関係の商店もありますので、農業と商工が連携して何かできるものがあれば、そういったものを広め、市民の方に買ってもらえるよう取り組んでいければ良いなと感じるところでございます。</p>

委員	<p>健康な体を作るには、楽しく食事をするのが一番と感ずます。</p> <p>暮らしの会で料理教室を開いても、コロナ禍で調理中の会話を控えていただいておりますが、会場に集まった際に少し言葉を交わすと、皆さんとても笑顔で、この笑顔が健康な体を作っていくのではと感じました。</p>
委員	<p>この頃、高齢者の配食サービスについてテレビや広告で目にしますが、素案 22 頁の高齢者配食サービスとはどのようなものでしょうか。</p>
事務局	<p>市長寿支援課で、一定の条件を満たす希望者向けに、市の補助により見守り支援を付随させ、昼食又は夕食どちらか 1 食を有料で配食サービス業者により配食しているようです。</p> <p>しかし、現在民間における類似サービスが一般化している事等を踏まえ、食事に限らず高齢者向けサービス事業を精査しており、今後現状と同じサービスを継続するか検討している段階のようです。</p>
委員	<p>希望する場合は、どちらに申し込めば良いのですか。</p>
事務局	<p>吉川市役所の長寿支援課が窓口になります。条件に沿うかどうか、お問い合わせください。</p>
会長	<p>実際に市民の方が、どこに申し込めばいいのかと、事業の実施をご存じないことも考えられますので、広報の方法を工夫していけると、今回課題となったまちづくりにつながるように思います。</p>
委員	<p>私は保育所勤務ですが、先ほど会長がおっしゃったように基本目標 1 の(3)、生涯を通じた早寝早起き朝ご飯について、保育所でも目標にしています。</p> <p>保育所では、早寝早起き朝ご飯に“朝うんち”を追加し、朝きちんと家で排泄もしてくるよう子ども達と保護者に伝えています。入学後、学校に着いてから便意をもよおすと、学校の集団生活の時間割上、難しい場面もありますので、家庭できちんと生活リズムをつけ、朝排泄する習慣を幼い時期から形付けていけると良いと考えます。</p> <p>また、基本目標 2 の(3)食文化について、保育所では伝統食についても伝えていきたい部分ですが、昨今、餅や豆は誤嚥を防ぐ観点から提供が控えられ、実際に子ども達に食べさせる場面が無くなってきています。しかし、餅つきや豆まき等その食材に触れる機会については伝えながら、豊かな心を育み、伝統に触れる機会を大切にしたいと思ひます。</p>
会長	<p>行事食や伝統食の話が出ましたが、私は昨年度から吉川市に異動し、地方の伝統的な食材を活かした献立等が提供されることが多く、ありがたく感じています。</p> <p>子ども達も、中には食べ慣れないメニューもあるようですが、そういった所も含めて、食に興味を持っていくことが大切だと考えます。</p> <p>給食センターから何か補足があればお願いできればと思ひます。</p>
栄養士	<p>今回、計画の内容が興味関心から実践へと変わってきております。給食センターでも実践に向けて、付け加えられる現状をお伝えします。</p> <p>まず、行事食や伝統食、その他食に関する体験等を、教育委員会でX(旧 Twitter)を始め、随時配信しております。こちらは、どなたでも見ることができますのでぜひご覧いただければと思ひます。</p> <p>また、給食では吉川市産の食材をなるべく多く使うように取り組みを進めていまして、現在農家の方と協力し、東中学校、三輪野江小学校ではオクラの種まきから先日収穫し、そちらを給食で提供しました。</p>

<p>栄養士</p>	<p>保育所でも収穫体験を行っておりますが、学校でも現状の 2 校から広げていけるように、農業関係の委員の皆さまにも、ぜひご協力いただければ幸いです。</p> <p>基本目標 1 の「健全な体をつくる」という部分では、生涯を通じた健康作りの土台となる、体を作る最終段階がこの就学期であると考えておりますので、食育事業や、給食事業、給食時間での指導の中で、それらを踏まえて子ども達に指導を展開したいと考えております。</p> <p>また、どうしても体は食だけでは作れないものでございます。やはり体を知る、体を作る、そのために体を動かすということも大切ですので、各学校におられる養護教諭や体育主任、給食主任の先生方と連携をとりながら、子ども達にどんな課題があり、どのように育っていけば良いかを考えながら、見極めていきたいと考えております。</p> <p>素案について気になる点として、23 頁、基本目標 2(1)、「4つのわ食」について、前回計画作成時に自身が携わっており、みんなで楽しく食事を囲むことでの「輪」を一番に掲げまして、そこから豊かな心を育むことや食におけるマナーを意味する「話」、それから伝統食や家庭料理を伝えていく和食の「和」、という順番を意識し掲げておりましたが、今回、現行の「3つのわ」から「4つのわ」に変更されると事務局からお話ございましたが、「環」が先頭に据えられています。</p> <p>先ほど、会話の重要性についてご意見がありましたが、順番はこれで良いか疑問に思いましたので、改めて皆様からご意見いただければと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>何かご意見はありますでしょうか。その辺りも含めて、副会長からいかがでしょうか。</p>
<p>副会長</p>	<p>どういった意味を持たせてここに置くかによるかと考えます。意味するものの大きさから、小さいものからだんだん包んでいくのか、大きいものからより日常的なものにしていくのか、何を示そうとしているかを 1 度考えて、その順序を整理する必要があるかと思えます。</p>
<p>会長</p>	<p>事務局の考えはいかがでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>国重点事項の「3つのわ」は、環境から始まり、人の輪、食文化の和と、大きいものからだんだん身近なものへと順番に組まれていると思われれます。</p> <p>今回吉川市としてこの目標を掲げる位置付けとしては、豊かな心を育むため、食を通じたコミュニケーションを推進すべく、共食の場を設け、会話により様々な事柄が継承されていくことを目標としたい部分ですので、環境の環が一番先頭に来ることに、確かに事務局としても違和感があります。</p> <p>「話」を先頭とし、会話の中でそれらが継承されていくという流れが一案、又は栄養士の提案のように輪の中で繋いでいくイメージで、環境が最後に来て大きなくくりでまとめる流れでも良いかと、二案ご提案させていただきます。</p> <p>順位付けするのは難しい内容ですので、この場でご意見があれば頂戴し、ご意見が出ないようでしたら、一旦持ち帰らせていただき、次回素案の修正版をご提示する際に、改めてご意見がいただければと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>事務局案について、栄養士からご意見はございますか。</p>

栄養士	基本目標 2 が「豊かな心を育む」項目で、食を通じたコミュニケーションが必要とされる所を前回計画策定時に重視しておりましたので、「環」は最初ではないのかなという印象を持っております。取り組み内容についてもコミュニケーションとは離れてしまうような表現が多い印象ですので、その辺り整合性をとっていただけると良いかと思えます。
会長	それ以外の部分も含め、副会長からご意見はございますか。
副会長	28 頁の達成目標の中で、追加説明をお願いしたいと思います。 「健全な体をつくる」の中の健康診断を毎年受ける人の割合の増加について、これは以前より増加傾向で、良い状態だったということは理解しました。 そこで、この健診受診者は、どういった層が、どのような健診を受けているのでしょうか。受診率が高いのはどのような層で、低い層にはどのような問題があるのか、それを理解した上で、受診率の低い層の底上げをしなければ、次の目標達成が困難と考えます。
事務局	市が実施する成人向けの健診は、40 歳以上の国民健康保険の加入者を対象とした特定健診及び 18～39 歳の希望者対象の生活習慣病予防健診ですが、この現状値は、保護者、一般向けに実施したアンケートの結果から算出しています。 そのため、加入保険の種別や性別に関わらず、20～70歳までの方の回答によるものです。
副会長	そうすると、アンケートに協力して下さる健康意識の高い層に回答が集中し、多少事実とのずれがあるかもしれませんね。 目標値を 75%に上げるのは厳しい道のりに感じます。現状、かなり受診率が上昇してきたところで、さらに上昇を目指すとなると、受診率の低い保険種別を確認し、そこに力を入れて働きかける必要があるかなと思いました。
会長	先ほど話に出た国民健康保険加入者に限った受診率は何割程度か、事務局はデータを提示できますか。
事務局	委員各位へ議事録を送付する際に回答させていただきます。
副会長	続きまして、「豊かな心を育む」の中で共食の回数の指標を国計画に合わせて、1 週間、朝夕 14 回の食事の中で 11 回以上という目標に変えることについてです。 国に指標を合わせることは良いと思いますが、現状値の把握は無いということですね。素案の目標である 14 回中 11 回というと、土日一緒に食べないだけでも 4 回減りますので、この目標を目指すのであれば、共食の働きかけをかなりやっつけていかなければ、達成が難しいだろうと思いました。 働きかけは、学校や保育所の協力を得て、その大切さやメリット、どのように学校生活や健康に影響を及ぼすのか、効果的に浸透をはかる必要があります。例えば、朝食を食べる人が少ないという課題もありましたが、習慣的に食べない人は、たまに食べると体調を悪くするという要因もありますので、習慣化が鍵になるかと思えます。 また、今回 R5年度現状値の欄には前回指標である夕食の共食についてのデータが入っていますので、参考値であることの明記が必要か、とも思いました。

事務局	<p>アンケートの自由記載から察するに部活動があって子どもの帰りが遅いことや、保護者が仕事で子どもの夕飯喫食時間に帰宅できないことが考えられましたので、朝食の方が家族の誰かしらと揃うタイミングがあり、朝夕の合算であれば夕食に限った場合より共食の割合は上昇すると考えておりました。</p> <p>しかし、副会長のご意見のとおり、土日の4回潰れてしまうだけでも達成できない目標値であります。実際、県計画案を見ますと週11回以上という目標値を掲げつつも、8、9回という現状値ですので、一旦県現状値を吉川市の目標値とし、状況を見ることも一案であると考えます。</p>
事務局	<p>また、ご指摘の通り、R5年現状値については、目標値と算出方法が異なり読みにくさがありますので、「参考」と加えたいと考えます。</p> <p>その目標値については、現状値が把握できていない状況ですので、一旦国目標に合わせておき、今後の進捗管理や第4次計画策定の際に、現状に合わせた目標値に変更し、より実現性の高いものにしていく、といった考え方も一案と考えます。</p>
会長	<p>中学生ですと、子どもの都合で共食が叶わないこともあると思いますが、小学生ですと保護者の都合の方が大きい印象があり、目標値がどちらであっても、実際に現状値が出てきてから、それを底上げする方策となるとなかなか難しいなと感じました。</p> <p>では続けて、副会長よろしくお願いします。</p>
副会長	<p>食で育むまちづくりのうち、学校給食における吉川産野菜の使用割合を金額ベースに変え国指標に合わせるといことで伺いますが、県産や国産ではなく吉川産と限定しても良いでしょうか。絞ってしまうことで目標達成できないというような無理はないかの確認です。</p>
事務局	<p>金額ベースの指標に揃えることに関しては、妥当と考えています。</p> <p>県目標が重量ベースから食品数ベースに指標を変更した際、吉川市の給食は市内全小・中学校共通の献立を立てている都合上、一つの食材の使用量が膨大で、1品目で何百キロという規模の野菜を市内の農家から調達することから、食品数ベースよりも重量ベースの方が評価に適していると考え、重量ベースのまま据え置きました。</p> <p>今回、国、県ともに金額ベースに変わり、当市でも検討を重ね、金額ベースであれば、使用量に対して支払う金額で実績が見えることから、指標を揃えて経過を見ていくことで差し支えないと判断しました。</p> <p>市内産に限定するかに関しては、先ほど栄養士からもあったように、市内農家と密に連携をとって、これだけ吉川産野菜が活用できるよう尽力いただいているところですので、その結果が数値化されることは、市民の食育意識の向上につながり、市内農家の協力の実績としても残りますので、目標値を下げてでも、市内産に絞ることに意味があると考えています。</p>
会長	<p>子ども達に配られる献立表にも吉川産の食材が明記されていて、地元のものを使っていることが良くわかり、ありがたく思っております。</p> <p>全体を通して何かお気づきの点等ありますでしょうか。</p> <p>先ほど、東中学校ではオクラを栽培・収穫し、給食で提供していただいたお話がありましたが、コロナの蔓延を境に、小・中学生の農業体験の機会が薄れてきているように感じます。</p>

昔はよく各学校で、バケツで稲の栽培などしていたようなイメージがありますが、昨今は聞かなくなりました。市民農園等が近い学校であれば、そこへ行って機会を持てるかもしれませんが、その辺りも教育現場の立場から現状を見ていきたいと思っています。

それでは、いろいろご意見等をありがとうございました。

以上で議題は終了いたしましたので、会議の議長の職を終わらせていただき、司会にお返しいたします。

○第3回 吉川市食育推進協議会の開催日程について

令和5年11月21日(火)午前9時から

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和5年 10月26日

署名委員 下村悠太

署名委員 見村和明